

## 「奥多摩自然観察会 (7)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

巨木のスケッチが終わったあと、奥多摩ビジターセンターの自然観察指導員による、氷川溪谷周辺の観察ウォーキングが待っていた。なかなか盛りだくさんな内容である。こういう場所で自然観察をする場合、やはりその土地の自然に詳しい方に案内してもらうのが一番良い。



まずは、ビジターセンター前の広場で、奥多摩の自然についてのレクチャーを受けた。なぜ奥多摩には麓からいきなり急峻な山が多いのか、なぜ石灰岩を多く産するのかなどの解説があった。



ビジターセンターから奥多摩駅までは、徒歩わずか3分。駅前には奥多摩町役場、その奥には石灰岩を加工する工場がある。「奥多摩工業氷川営業所」である。青梅線はもともとこの会社が設置したもので、かつては石灰岩を満載して貨物列車が青梅線を走っていた。現在は、奥多摩駅の先で線路が途切れ、青梅線には旅客用の電車しか走っていない。



奥多摩駅のホームには、中央線と同じオレンジのラインの電車が停まっていた。行き先は何と「東京」。平日の早朝(5:47発)と休日の午後には、東京駅まで直通する電車が走っているのだ。奥多摩駅~東京駅間は74.7km。約2時間かかる。東京都の中だけを走る旅客電車では、最長距離を走る電車である。



しばらく歩くと、橋を渡って対岸へと通じる。橋の下を流れているのは「日原川(にっぽらがわ)」である。日原川は多摩川の支流の中でも、最上流部の川の一つで、合流部ですらすでに「上流」の景観を持っている。この川に沿って走る「日原街道」をさかのぼると、「日原鍾乳洞」がある。東京都にも鍾乳洞があるのは驚きだが、内部はなかなか美しい。私はこの日原鍾乳洞前のお土産物屋さんで、かつて店主のお婆さんから、鍾乳石を譲ってもらったことがある。今でも大切にしているが、現在では入手困難な貴重品だ。

遠くに見えるのは、急峻さで有名な「本仁田山」である。私はかつて何度も登った思い出の山だ。急峻ではあるが、駅から直接登山できるのが魅力だ。